特別支援学校等

令和７年度

教育研究員研究報告書

視・聴・肢・病
及び重複障害教育

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究構想図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究の視点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　研究仮説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅴ　研究方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅵ　研究内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅶ　研究の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅷ　今後の課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

研究主題

教材の選定理由を明確化した授業づくり

～授業の目標を確実に達成できることを目指して～

Ⅰ　研究主題設定の理由

文部科学省は、令和３年１月の中央教育審議会答申において、「令和の日本型学校教育」の目指す姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を提唱している。そこでは、「『指導の個別化』により個々の児童生徒の特性や学習進度等を丁寧に見取り、その状況に応じた指導方法の工夫や教材の提供等を行うことで全ての児童生徒の資質・能力を確実に育成すること」が期待されている。また、「東京都教育施策大綱」（東京都教育委員会 令和７年３月）では、「デジタルを活用した学びの転換」として、「子供がＩＣＴも活用しながら学びのプロセスを自ら決定する授業」と示している。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領においては、「適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること」が示されている。関連して、令和５～７年度障害種別特定研究の「肢体不自由特別支援学校における最新のＩＣＴ活用状況」（令和６年２月　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）の調査では、教材・教具や支援機器としてＩＣＴ機器を活用できる環境が整ってきており、特別支援学校でのＩＣＴの活用が進んできていることが示されている。一方、指導のねらいや指導内容を達成するために、児童・生徒に応じたＩＣＴ機器等を選定して活用できているかという設問に対しては、約 11％の学校において、十分ではないと考えているとの回答がある。このことからＩＣＴ機器等を使用することが目的となってしまっている学校が一定数あることが読み取れる。また、ＩＣＴ機器のみならず、アナログ教材も含めて、教員が児童・生徒の実態に応じて適切に教材を選定、活用することに難しさがあることが考えられる。

指導の効果を高めて授業の目標を達成するためには、授業を計画する段階において、教材を選定する観点を基に丁寧に選定し、具体的な教材の活用方法について明確にすることが必要であると考えた。

そこで、本研究では、研究主題を「教材の選定理由を明確化した授業づくり～授業の目標を確実に達成できることを目指して～」とし、教材の選定理由を明確にするための方策や活用方法について検討する。さらに、最適な教材を選定できたかを複数の教員で授業前後に共有することにより、授業に関わる教職員の間で授業者の意図を共通理解して授業を行うことに取り組む。より適切に教材選定を行えるようにすることで、授業の目標を確実に達成できることを明らかにする。

Ⅱ　研究構想図

共通研究テーマ：全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

現状と課題

【現状】
○ＧＩＧＡスクール構想などによって、肢体不自由校でも少しずつデジタル教材の活用が定着しつつある。
○アナログ、デジタル教材共に教材の選択肢が増えた。その一方で、教員が適切に教材を選定、活用することに困難さがある。

【課題】
○肢体不自由のある児童・生徒の学びを深めるためには、教員が障害の状態や特性を踏まえて適切に教材を選定できる能力を高め、効果的に活用することが重要である。

関連法令・施策等

○特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
○特別支援学校高等部学習指導要領
○「『令和の日本型教育』の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」
（中央教育審議会　令和３年１月 26 日）
○「東京都教育施策大綱　（東京都　令和７年３月）
○「東京都教育ビジョン（第５次）」
（東京都教育委員会　令和６年３月）
○「東京都特別支援教育推進計画（第二期）
第三次実施計画」（東京都教育委員会　令和７年３月）

研究主題　**教材の選定理由を明確化した授業づくり**
～授業の目標を確実に達成できることを目指して～

研究の視点

○適切に教材を選定することを目的として、学習指導略案に教材の選定理由欄と使用教材について確認するチェックリストを設定する。
○学習指導略案に設定した選定理由欄とチェックリストを活用し、選定した教材の効果について検証を行う。

研究仮説

○学習指導略案に教材の選定理由を記載し、チェックリストを活用して教材を選定することで、効果的に教材を活用することができ、児童・生徒が授業の目標を確実に達成できるだろう。

研究方法

【基礎研究】
(1) 令和３年度教育研究員研究報告書「視・聴・肢・病及び重複障害教育」の理解と分析
(2) 令和５～７年度障害種別特定研究「肢体不自由特別支援学校における最新のＩＣＴ活用状況」（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）の理解と分析
(3) 学習上の支援機器等教材活用評価研究事業成果報告書（文部科学省）の理解と分析

【実践研究】
(1) 学習指導略案に記入できる項目を設けたことで、教材の選定理由を明確にでき、効果的に教材の活用を図ることができたかを授業を通して検証
(2) チェックリストの項目の検討
(3) 検証授業を通してチェック項目等の振り返り

検証の方法

○チェックリストを活用し、かつ教材選定理由や効果的な活用を記入する項目を加えた学習指導案を作成し検証授業を実施する。その後に「選定した教材は効果的であったか。」「より学びを深められる学習になったか。」を検証する。
○検証授業から、選定理由の項目とチェックリストの項目が適切であったかを検討する。

Ⅲ　研究の視点

本研究では、特別支援学校における教材の選定理由を明確化した授業づくりに向け、以下に示す２つの視点から研究を進めた。

(1)　適切に教材を選定することを目的として、学習指導略案に教材の選定理由欄と使用教材について確認するチェックリストを設定する。

(2)　学習指導略案に設定した選定理由欄とチェックリストを活用し、選定した教材の効果について検証を行う。

Ⅳ　研究仮説

学習指導略案に教材の選定理由を記載し、チェックリストを活用して教材を選定することで、効果的に教材を活用することができ、児童・生徒が授業の目標を確実に達成できるだろう。

Ⅴ　研究方法

１　基礎研究

(1)　令和３年度教育研究員研究報告書「視・聴・肢・病及び重複障害教育」の理解と分析

(2)　令和５～７年度障害種別特定研究「肢体不自由特別支援学校における最新のＩＣＴ活用状況」（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）の理解と分析

(3)　学習上の支援機器等教材活用評価研究事業成果報告書（文部科学省）の理解と分析

２　実践研究

(1)　学習指導略案に記入できる項目を設けたことで、教材の選定理由を明確にでき、効果的に教材の活用を図ることができたかを授業を通して検証

(2)　チェックリストの項目の検討

(3)　検証授業を通してチェック項目等の振り返り

Ⅵ　研究内容

１　基礎研究

(1)　令和３年度教育研究員研究報告書「視・聴・肢・病及び重複障害教育」の理解と分析

過去の当部会の研究において、「ＩＣＴ活用のみの授業展開では、単元の指導目標に達することが難しい場合もある」ことが示されており、児童・生徒の実態に応じて、ＩＣＴを活用した指導だけではなく、具体物に触れ、操作するといった学習も、各教科等で育成すべき資質・能力を育むためには不可欠であることが分かった。

(2)　令和５～７年度障害種別特定研究「肢体不自由特別支援学校における最新のＩＣＴ活用状況」（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）の理解と分析

ＩＣＴ機器を活用できる環境が整ってきており、特別支援学校での活用も進んできているが、児童・生徒に応じたＩＣＴ機器等の選定が不十分であることも示されている。授業の目標を確実に達成できるようにするためにも、授業で使用する教材の選定理由を明確にし、効果的に活用していくことが必要であることが分かった。

(3)　学習上の支援機器等教材活用評価研究事業成果報告書（文部科学省）の理解と分析

児童・生徒の学習の困難さを明確にするためのチェックリストを基に、必要な支援機器を選定する方法が示されている。各教員が児童・生徒に対して授業で活用した支援機器の事例を集めて検討し、適切に支援機器を使うことで授業の理解度が高まったという報告もあり、適切な教材選定が学びを深めるのに役立つことが分かった。

２　実践研究

(1)　学習指導略案に記入できる項目を設けたことで、教材の選定理由を明確にでき、効果的に教材の活用を図ることができたかを授業を通して検証

見て分かりやすいように写真を入れ、教材を選定した理由が明確化するよう「選定理由」欄を設けた。また、選定した理由を踏まえた適切な使用方法となるよう「使用及び支援方法」の欄を設けた。（図１）

11 教材	使用する教材	選定理由	使用及び支援方法
	Ⅰ　写真	・	・
	Ⅱ　写真	・	・
	Ⅲ　写真	・	・

図１　使用する教材の記入欄

(2)　チェックリストの項目の検討

児童・生徒がより学びを深められるような授業づくりができるように、チェックリストの項目を検討した。授業者が活用するときに負担感がなく日常的に活用できるよう、内容を簡潔に示すことにした。授業前の計画段階では、選定した教材が、対象とする児童・生徒に適合したものかどうかを確認でき、授業後には選定した教材が目標を達成するために妥当であったか評価ができるよう、授業の前後にチェックが入れられるようにした。（図２）

12 教材選定 チェックリスト	項目	事前	事後
	児童・生徒が活動する様子をイメージできるか		
	操作や設定が容易で、授業の流れを止めずに活用できるか		
	安全性が確保されているか		
	発達年齢・生活年齢に合っているか		
	目標の達成を促しているか		
	理解を助けるために次の感覚を活用しているか （視覚・聴覚・触覚・嗅覚　）		

図２　教材選定チェックリストの項目

(3)　検証授業を通してチェック項目等の振り返り

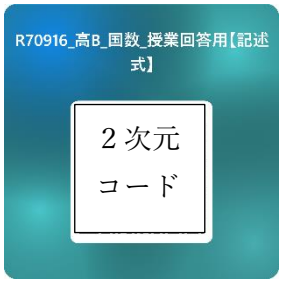
ア　検証授業①　（都立Ａ特別支援学校高等部）

(ｱ)　学習指導略案

令和７年度　教育研究員（特別支援学校等　視・聴・肢・病及び重複障害教育）学習指導略案

<table>
<tr><td>1　学校</td><td colspan="2">都立Ａ特別支援学校</td><td>2　授業者</td><td>○○　○○</td></tr>
<tr><td>3　日時</td><td>○月○日(○)</td><td>○時○分～○時○分</td><td>4　場所</td><td>教室</td></tr>
<tr><td>5　対象</td><td colspan="2">小学部・中学部・高等部</td><td>Ｂグループ（知的代替）</td><td>11 人</td></tr>
<tr><td>6　単元名</td><td colspan="4">国語・数学　「挨拶や敬語、マナーの見える化大作戦！」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7
内容の
まとまり</td><td colspan="4">特別支援学校　高等部　国語　第１段階　／　中学部　数学　第１段階</td></tr>
<tr><td colspan="2">【知識及び技能】
〔国語〕
アー(カ)
〔数学〕
Ｄ　データの活用
アー(ア)―㋐</td><td>【思考力、判断力、表現力等】
〔国語〕
Ａ　聞くこと・話すこと
ア
〔数学〕
Ｄ　データの活用
アー(イ)―㋐</td><td>【学びに向かう力、人間性等】
〔国語〕
(1) 目標　ウ
〔数学〕
(1) 目標　Ｄ　データの活用　ウ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8
評価規準</td><td colspan="2">ア　知識・技能</td><td>イ　思考・判断・表現</td><td>ウ　主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td colspan="2">①　日常よく使われる敬語を理解している。（国語）
②　身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりしている。（数学）</td><td>①　社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中心に注意して聞き、話しの内容を捉えている。（国語）
②　身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読みとったり、考察したりしている。（数学）</td><td>①　言葉がもつよさを認識するとともに、思いや考えを伝えあおうとしている。（国語）
②　データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことの良さに気付き、そのことを生活や学習に活用している。（数学）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9
本時の
目標</td><td colspan="2">(1)知識及び技能</td><td>(2)思考力、判断力、表現力等</td><td>(3) 学びに向かう力、人間性等</td></tr>
<tr><td colspan="2">・　学校生活の様々な場面における正しい敬語やマナーを理解できる。</td><td>・　挨拶やマナーについて、気付いた点や考えを伝えることができる。</td><td>・　敬語やマナーにおける距離、時間などの数学的な事項について、生活や学習に活用することができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">10
本時</td><td>時間</td><td>学習内容</td><td>指導上の留意点・配慮事項</td><td>評価規準及び評価方法</td></tr>
<tr><td>13：35
導入
（５分）</td><td>○始まりの挨拶
○前時の復習
本時の確認</td><td>・　全体を確認し、日直に促す。
・　スライドを基にして、適宜、生徒に問いかけながら進行する。</td><td></td></tr>
<tr><td>13：40
展開
（40 分）</td><td>○敬語・マナークイズ
・　日常の場面を切り抜</td><td>・　動画は複数回提示し、場面ごとに個別ワーク、グループワーク、発表の順で進めていく。</td><td></td></tr>
</table>

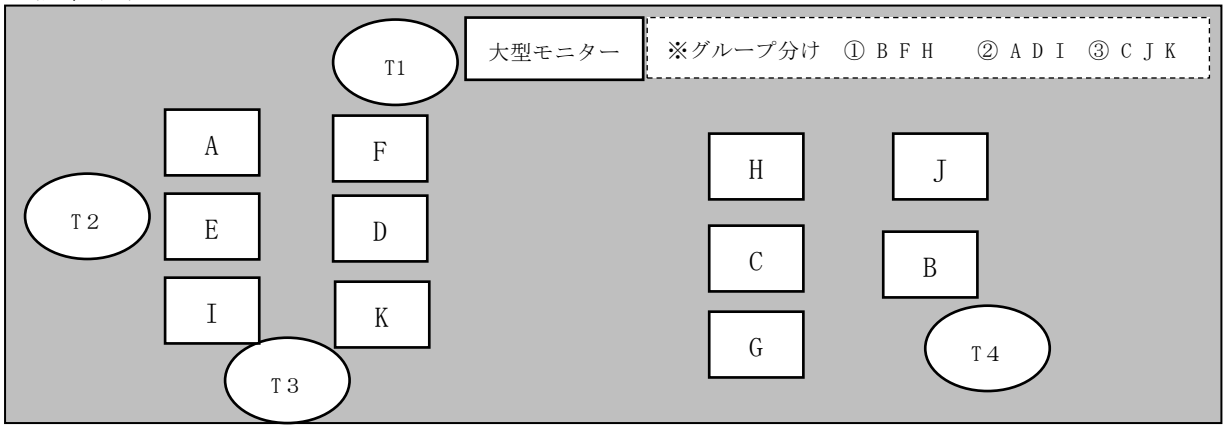
		いた動画を視聴する。 ▸教材Ⅰ ・　挨拶やマナーにおいて正しくない点、改善案を個別とグループで考える。 ▸教材Ⅱ ・　個別やグループで集約した回答を全体で共有し、回答例を確認する。	・　回答は、個別の端末から記述式または選択式のフォームにて個別に行う。グループワークでの内容は、ワークシートにまとめる。 ・　三つのグループそれぞれに教職員が入り、話し合いの進行や意見の集約を必要に応じて行う。 ・　生徒から出た意見を取り上げながら、回答例や改善案を全体に提示する。	アー①（行動観察、回答内容） ウー①②（行動観察、発表）
	14：20 まとめ （５分）	○授業の振り返り ○終わりの挨拶	・　個別（アンケート）と全体で本時の要点や目標を振り返る。 ・　全体を確認し、日直に促す。	

11 本時の目標に関わる教材	教材名、写真	選定理由	使用及び支援方法
	Ⅰ　クイズ用動画 	・　映像資料を用いることで、普段の生活と照らし合わせながら、考えることができるようにする。身近な人が登場する動画を用いることで、生徒の興味・関心をひくことをねらう。また、よくない点を提示することで、生徒自身の改善案を引き出すことをねらう。	・　授業者はタブレット端末を用いて、大型モニターに投影する。適宜、解説や補足の説明を行いながら複数回再生して、要点に気付けるようにする。 ・　動画は事前に共有フォルダにて、個別のタブレット端末等で見られるようにする。
	Ⅱ　クイズ回答用フォーム  	・　個々の考えを個別の端末にて回答、保存できるように統合型学習支援サービスを用いる。個々の事態に合わせて、記述式・選択式を使い分けられるようにし、送信された内容を基にして評価を行えるようにする。	・　入力フォームのリンクは、あらかじめ共有フォルダでの提示し、授業の中では２次元コードにて提示する。 ・　個々の実態に応じて、記述式と選択式を使い分けるよう促し、必要に応じて回答の支援を行う。

12 教材選定チェックリスト	項目	事前	事後
	児童・生徒が活動する様子をイメージできるか	✔	✔
	操作や設定が容易で、授業の流れを止めずに活用できるか	✔	✔
	安全性が確保されているか	✔	✔

	発達年齢・生活年齢に合っているか	✔	✔
	目標の達成を促しているか。	✔	✔
	理解を助けるために次の感覚を活用しているか （ 視覚 ・ 聴覚 ・ 触覚 ・ 嗅覚 ）	✔	✔
	11 に記載した教材は上記の全てにチェックがついたか	✔	✔

〔配置図〕



(ｲ) 結果

・ 映像資料を教材として使用し、繰り返し同じ場面を投影したことで、幅広い実態の集団でありながらも、生徒たち自身で挨拶やマナーについて、気付いて、考えを伝えようとする姿が見られた。

・ 授業者の自評として、授業づくりの際に、授業の目標の達成に適している教材なのか、選定理由を基に振り返ることができた、という意見が挙がった。

・ 授業後の協議会において、教材選定チェックリストの事後の欄について、記入方法が示されていないとどのように記入すればよいのか分かりにくいとの意見が挙がった。

・ 配置図を入れたことで、教職員間が連携できていた。

(ｳ) 考察

・ 次回の授業への改善点が明確になるように、教材選定チェックリストの事後評価を「A」、「B」、「C」の三段階評価とし、欄に記載をすることとした。

・ 学習指導略案の中で、授業ごとに更新する箇所を明確にするために、項目を色分けすることとした。（更新する項目の背景を薄くしている。）

・ 教職員間の連携に効果的であったため、配置図は継続して記載することとした。

イ 検証授業② （都立Ｂ特別支援学校高等部）

(ｱ) 学習指導略案

令和７年度 教育研究員（特別支援学校等 視・聴・肢・病及び重複障害教育）学習指導略案

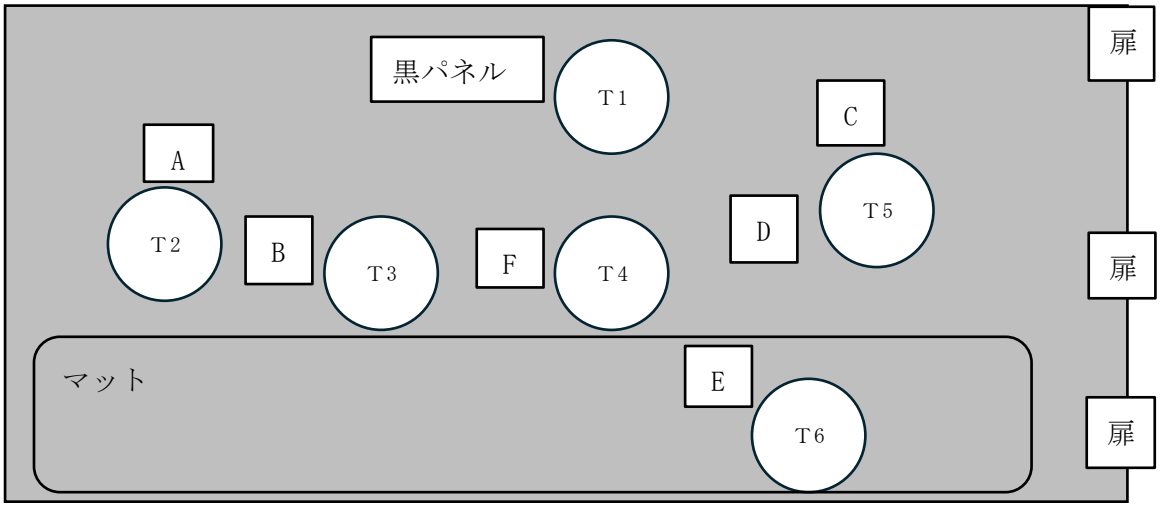
1 学校	都立Ｂ特別支援学校		2 授業者	○○ ○○
3 日時	○月○日(○)	○時○分～○時○分	4 場所	教室
5 対象	小学部・中学部・高等部	Ａ１グループ（自立活動を主とする）	６人	
6 単元名	数学「ものを、たしかに とらえよう」			
7 内容のまとまり	特別支援学校 小学部 数学 第１段階			
	【知識及び技能】 Ａ 数量の基礎	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】	

	ア-(ア)-㋐ ア-(ア)-㋑		A　数量の基礎 ア-(イ)-㋐	A　数量の基礎 ウ
8 評価規準	ア　知識・技能		イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
	・　具体物に気付いてつかもうとしたり、目で追ったりする。 ・　目の前で隠されたものを探す。		・　対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚（視覚、聴覚、触覚）を協応させながら捉える。	・　数量や図形に気付き、数学の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
9 本時の 目標	(1)知識及び技能		(2)思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
	①　好きな物に気付いて、つかもうとしたり目で追ったりしている。 ②　物が隠れたときに、隠れたことに気付き、視線や動きで探す。		①　好きな物に注意を向け、それらの存在に注目し、諸感覚（視覚、聴覚、触覚）を協応させながら捉えている。	①　数量や図形に気付き、数学の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
10 本時	時間	学習内容	指導上の留意点・配慮事項	評価規準及び評価方法
	13：35 導入 （５分）	・　始まりの挨拶 ・　20 の数え歌（数学のテーマソング）	・　当番制で日直が挨拶をする。挨拶後に、毎回同じ音を鳴らす。 ・　数え歌に合わせて、生徒に握手などインプットする。	ウ―①（視線、身体の動き、表情）
	13：40 展開 （43 分）	・　好きな物を見付ける。 ▸教材Ⅰ ・　自分の好きな物を発表する。 ▸教材Ⅱ	・　物の捉え方について、また、自立活動の視点から、生徒のより学習しやすい姿勢で取り組む。 ・　興味のある物とそうでない物を用意し、自ら好きな物を探し出せるように設定する。 ・　生徒の実態により、隠れたものを探したり見付けたりする課題を取り入れる。 ・　発表の場面では、スイッチなどを活用したり、生徒の手の動きを引き出したりする。	ア―①（視線、身体の動き、表情） アー②（視線、身体の動き、表情） イー①（視線、身体の動き、表情）
	14：23 まとめ （２分）	・　終わりの挨拶	・　当番制で日直が挨拶をする。挨拶後に、毎回同じ音（鈴）を鳴らす。	

11 本時の 目標に 関わる 教材	教材名、写真	選定理由	使用及び支援方法
	Ⅰ　黒いトレー、黒い箱 	・　まず、好きな物が「ある」ことに気付きやすく（注目しやすく）するため。 ・　好きな物が隠れたことから探しやすくする、また、「ない」ことを学習するため。	・　自立活動の視点より、生徒が物を捉えやすい位置に提示する。 ・　「〇〇はどこ？」「あった」、「ある」「ない」、「なくなった」「おわり」の順に言葉掛けする。
	Ⅱ　発表順、好きな物の提示 （個別のタブレット端末で） 	・　発表することに対して、生徒にイメージを持たせるため。 ・　自分の番をサブティーチャーと一緒に確認するため。 ・　物の提示を、生徒の見えやすい位置に提示するため。	・　発表する活動になり、授業者がタブレット端末を提示したら、個々のタブレット端末を生徒の見えやすい、聞きやすい位置に提示する。 ・　聴覚で捉える生徒は、「〇〇さんの次だね」などと言葉を添えて、生徒に提示する。

12 教材選定 チェックリスト	項目　（事前は　確認した項目に✔、　事後は　A：よくできた　B：一部改善の余地あり　C：できなかった を評価）	事前	事後
	児童・生徒が活動する様子をイメージできるか	✔	A
	操作や設定が容易で、授業の流れを止めずに活用できるか	✔	A
	安全性が確保されているか	✔	A
	目標の達成を促しているか。	✔	B
	発達年齢・生活年齢に合っているか	✔	A
	理解を助けるために次の感覚を活用しているか （　視覚　・　聴覚　・　触覚　・　嗅覚　）	✔	A
	11 に記載した教材は上記の全てにチェックがついたか	✔	A

〔配置図〕



(ｲ)　結果

・　教材の選定理由を明確化したことで、授業の目標達成に近づける授業づくりができた。生徒は好きな物が「ある」ことに気付いて注目している様子が見られた。

・　授業者の自評として、「教材」に記載するものについて、基準があいまいであり、個別の支援機器を記載するのかどうか判断が難しかった、という意見が挙がった。

(ｳ)　考察

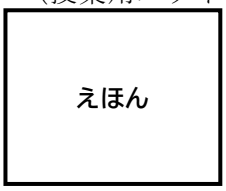
・　本研究において選定する「教材」は学習の「中身」となること、「教具」は学習を助ける「道具」となることと区別をすることとした。また、個別の支援機器については、「教具」として取り扱うこととした。

ウ　検証授業③　（都立Ｃ特別支援学校小学部）

(ｱ)　学習指導略案

令和７年度　教育研究員（特別支援学校等　視・聴・肢・病及び重複障害教育）学習指導略案

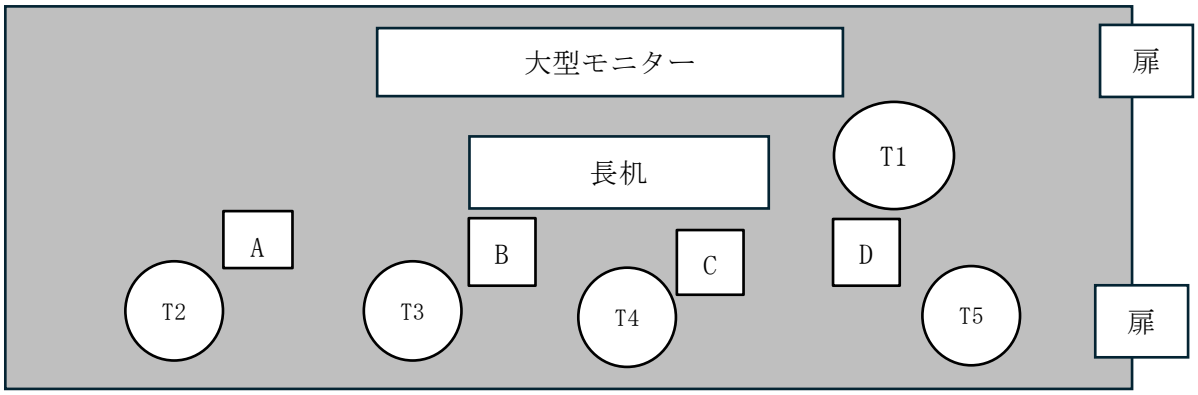
<table>
<tr><td>1　学校</td><td colspan="2">都立Ｃ特別支援学校</td><td>2　授業者</td><td>○○　○○</td></tr>
<tr><td>3　日時</td><td>○月○日（○）</td><td>○時○分～○時○分</td><td>4　場所</td><td>教室</td></tr>
<tr><td>5　対象</td><td colspan="2">小学部・中学部・高等部</td><td>Ａグループ（自立活動を主とする）</td><td>４人</td></tr>
<tr><td>6　単元名</td><td colspan="4">国語・算数「おべんとうをつくろう」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7
内容の
まとまり</td><td colspan="4">特別支援学校　小学部　国語　第１段階　／ 小学部　算数　第１段階</td></tr>
<tr><td colspan="2">【知識及び技能】
〔国語〕
イ-(エ)
〔算数〕
C 図形
ア-(ア)-㋐</td><td colspan="2">【思考力、判断力、表現力等】
〔国語〕
C 読むこと　エ
〔算数〕
C 図形　ア-(イ)-㋐</td><td>【学びに向かう力、人間性等】
〔国語〕
(1) 目標　ウ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8
評価規準</td><td colspan="2">ア知識・技能</td><td colspan="2">イ思考・判断・表現</td><td>ウ主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td colspan="2">①　言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする。〔国語〕
②　具体物に注目して指を差したり、つまもうとしたり、目で追ったりする。〔算数〕</td><td colspan="2">①　絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物などの動きを模倣したりすること。〔国語〕
②　対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。〔算数〕</td><td>①　言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。〔国語〕</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9
本時の
目標</td><td colspan="2">(1)知識及び技能</td><td colspan="2">(2)思考力、判断力、表現力等</td><td>(3) 学びに向かう力、人間性等</td></tr>
<tr><td colspan="2">・　教材を手に取り、お弁当箱に入れようとすることができる。</td><td colspan="2">・　次の場面に期待し、セリフの場面で教員の呼び掛けに応じようとすることができる。</td><td>・　自分から積極的に手を動かそうとしたり、発声しようとしたりする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">10
本時</td><td>時間</td><td>学習内容</td><td>指導上の留意点・配慮事項</td><td>評価規準及び評価方法</td></tr>
<tr><td>9:50
導入
（5 分）</td><td>・　はじまりのうた
・　あいさつ</td><td>・　日直がベルを鳴らした後、はじまりのうたを流す。
・　あいさつをする。</td><td></td></tr>
</table>

	9:55 展開 （35 分）	・　絵本 読み聞かせ 台詞でスイッチを押す ▸教材Ⅰ ▸教材Ⅱ ・　やってみよう 「おべんとうをつくろう」 教材をお弁当箱に入れ、お弁当を作る。 ▸教材Ⅲ ・　振り返り 「みんなのおべんとう」 それぞれが作ったお弁当を見る。	・　大型モニターが見やすいよう姿勢や位置を工夫する。 ・　台詞の場面は時間を長めに設定し、児童がスイッチを押せるよう促す。 ・　教材は個別に用意し、それぞれで活動を行う。 ・　必要に応じて教職員と一緒に取り組む。 ・　児童全員が見えるように順番に目の前に提示する。 ・　絵本と同じ「みんないっしょに、いただきます」の台詞で見立て遊びを楽しめるようにする。	イ①（視線、身体の動き、表情） ウ①（視線、身体の動き、表情） ア②（視線、身体の動き、表情）
	10:30 まとめ （5 分）	・　おわりのうた ・　あいさつ	・　日直がベルを鳴らした後、おわりのうたを流す。 ・　あいさつをする。	
11 本時の目標に関わる教材	教材名、写真		選定理由	使用及び支援方法
	Ⅰ　デジタル絵本 （授業用スライド）  		・　大型モニターで大きく提示するため。 ・　児童が興味をもちそうな音や映像効果を使用することで、注目を促すため。	・　大型モニターに投影する。 ・　児童が大型モニターに注視できているか確認し、適宜姿勢や位置を工夫する。
	Ⅱ　スイッチ教材 		・　児童それぞれに合ったスイッチを用意しやすいため。 ・　押しやすい形状のスイッチを用意することで、児童が自発的にスイッチを押すことをねらいとするため。	・　タブレット端末のアプリを使用する児童は、画面に一つのスイッチのみ提示する。 ・　音声出力装置やスイッチを使用する児童は、押しやすい姿勢や位置を工夫する。

			・　実態に合わせてスイッチを使用しない場合もある。 ・　適宜言葉掛けを行い、児童がスイッチを押せるよう促したり、押したときに称賛したりする。
	Ⅲ　具体物 	・　握りやすい、触り心地が良い教材を用意することで児童が自発的に教材を掴むことを促すため。 ・　実際に児童が握り、お弁当箱に詰める活動を行うことで、自分だけのお弁当という特別感やできたときの達成感を感じられるようにするため。 ・　弁当箱や具材に選択肢を用意することで、好みの教材に注目する力や自発的に手を伸ばそうとする力を伸ばしたいため。	・　握る、離すの動作が可能な場合、できるだけ児童の発想でお弁当を作るよう見守る。 ・　握る、離すが難しい場合は教職員と一緒に取り組む。 ・　具材は好きなものを詰めてよい。同じものばかり、量が少ない、などは自由に取り組む。 ・　お弁当を作りながら見立て遊びを行ってもよい。 ・　完成したお弁当は全員で称賛する。

12 教材選定チェックリスト	項目　（事前は　確認した項目に✔、　事後は　A：よくできた　B：一部改善の余地あり　C：できなかった を評価）	事前	事後
	児童・生徒が活動する様子をイメージできるか	✔	A
	操作や設定が容易で、授業の流れを止めずに活用できるか	✔	A
	安全性が確保されているか	✔	B
	発達年齢・生活年齢に合っているか	✔	B
	目標の達成を促しているか	✔	A
	理解を助けるために次の感覚を活用しているか （　視覚　・　聴覚　・　触覚　・　嗅覚　）	✔	A
	11 に記載した教材は上記の全てにチェックがついたか	✔	A

〔配置図〕



(ｲ)　結果

・　児童が興味をもちやすい教材を取り扱ったことで、児童自ら積極的に手を動かそうとしている様子が見られた。

・　教材選定チェックリストの事後評価を参観者に記載してもらった。観点があることで、参観のポイントが絞られて良かった、との意見が挙がった。

・　サブティーチャーが異なっても、学習指導略案を見てもらうことで、同単元においては、同じような支援をすることができた。

(ｳ)　考察

・　教材選定チェックリストの事後評価を様々な人からもらうことで、より多様な意見のある教材選定の振り返りができた。

・　学習指導略案に、より詳細な個別の配慮等をどれだけ記入するかについては検討課題となった。

Ⅶ　研究の成果

(1)　教材の選定理由の明確化

教材を選定する観点を基に丁寧に選定し、具体的な教材の活用方法について明確にすることで、学習の目標に迫る効果的な教材を選定できているかどうかの確認を授業者自身が事前に行うことができた。また、使用及び支援方法を記載することは、授業者自身が意識せずに行っていたことを言語化することにつながり、授業者が自身の行動を考えるきっかけにもなった。そして、教材の選定理由や使用及び支援方法を校内の教職員と共有することにより、校内の教職員が授業者の意図を把握し、他の授業においても効果的に教材を活用することができた。

(2)　教材選定チェックリストの活用

授業前に教材選定チェックリストを活用することで、児童・生徒が授業の目標を確実に達成できるようにするための必要な観点を漏れなく踏まえているのか授業者が確認することができた。また、今までよりも児童・生徒の発達年齢を考慮したり、感覚の活用について検討したりするようになり、児童・生徒の実態把握をより意識するようになった。さらに、児童・生徒が興味をもちやすい教材を取り扱ったことで、児童・生徒が主体的に活動に取り組もうとする様子が見られるなど、授業の目標達成に近づける授業づくりができた。授業後には、チームの教職員がチェックリストの項目を観点として授業を振り返り、授業者と共有することで、次回の授業づくりに生かすことができた。

Ⅷ　今後の課題

本研究において作成した学習指導略案では、一定の成果を確認することができた。日々の授業で継続して活用していき、学びをより深める学習に迫る学習指導略案になるようにさらに項目等を検討していく必要がある。また、打合せ段階でのより詳細な情報等の共有方法についても、併せて検討をしていく必要がある。

令和７年度　教育研究員名簿

特別支援学校等　視・聴・肢・病及び重複障害教育部会

学　校　名	職　名	氏　名
東京都立城南特別支援学校	主　幹　教　諭	◎　神　子　　満　代
東京都立墨東特別支援学校	主　幹　教　諭	○　加　藤　　尚
東京都立北特別支援学校	教　　諭	福　田　　篤　生
東京都立村山特別支援学校	主　任　教　諭	武　山　　聡　子
東京都立青峰学園	主　任　教　諭	山　田　　あかね

◎世話人　○副世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部特別支援教育指導課
指導主事　石川　祐介

令和７年度

教育研究員研究報告書
特別支援学校等
視・聴・肢・病及び重複障害教育部会

令和８年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８６９